

R7学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導 研修	生徒一人ひとりの能力や個性に配慮した上で、生徒の主体性に基づいた教育活動を推進する。	ほぼ全ての教職員が「生徒一人ひとりの能力や個性に配慮し、生徒の主体性に基づいた教育活動」の推進を意識している。「はい」の割合が昨年度比+10.7ポイントで、自己の教育活動を肯定的に捉えている教職員が多いことがうかがえる。	「どちらかといえばはい」(28%)、「どちらかといえばいいえ」(2%)と回答した理由を把握するために、記述欄を設けたり、教科会や学年会を利用して、有効な活動や指導について意見交換したり共有したりする機会を設ける。
	「授業評価」を踏まえて、授業内容の改善・充実に努める。	ほぼ全ての教職員が授業評価を基に授業改善に取り組む意識を持っていることが確認できた。「はい」の割合が昨年度比+10.4ポイントで、授業評価の結果を活用しようという意識が高まっているとみられる。一方で、4%が「どちらかといえばいいえ」、「いいえ」と回答しており、評価結果が活かされていない、あるいは「授業評価」の定義があいまいになっている可能性がある。	「授業評価」という文言の意味が曖昧であり、来年度は「授業評価(県の「わかる度調査」または各自で行っているアンケートおよび分析など)」と補足を付けて、質問の意図を明確にする。また、今年度に引き続き「公開授業週間」の積極的な活用を促す。
情報	校内ネットワークおよび情報機器の充実と利用促進を図る。	昨年同様、教員・生徒ともに目標値を大きく上回っている。教員が使用する校務システムが今年度変更されたことにより、年度当初は多少の戸惑いも見られた。しかし、徐々にではあるが教員は校務に授業に積極的に活用する姿が見受けられた。生徒のラーニングシステムの活用も浸透し、校内ネットワークおよび情報機器が効果的に教育活動に活用されていることがうかがえる。	来年度は生徒端末の移行期であるため、より利用しやすいネットワーク環境を設定し、情報機器の活用法を研修会を通じて共有していく。さらに、故障や老朽化による機器の不足やパフォーマンスの低下が予想されることから、機器の整備・管理にも注力し、安定したシステム運用を実現する。
	服装や、スマートデバイスの使用などに関して、生徒が自律的行動がとれるように支援する。	昨年度、服装規定が分かりにくいとの声があったことから、今年度は服装規定を分かりやすく説明した文書を各クラスに提示するなど、生徒・教員双方の理解を促すよう努めた。ただし、生徒のスマートデバイスの自律的使用については、各項目で目標値を越えはしたものの横ばい状態になっており、今後のさらなる取組が必要である。	ここ数年で各規定が緩和されてきたが、その際、生徒会が提案した「自律的な行動をとる」という目標に対する意識が薄れていると思われる。生徒自身が自律的に行動する必要性を自覚するためにも、ルールの周知徹底に努めるとともに、生徒会活動を通してルールについて考え、自律的な行動を促すきっかけとする取組をさらに行っていく。
生徒支援	いじめの未然防止と早期発見、いじめの解消に学校全体で取り組む。	ほぼ全ての教職員がしっかりといじめ対策に取り組んでいる。本校ではいじめの発生件数は少ないが、今年度も人間関係のこじれに起因する自己申告、周囲の生徒からの申告によって対応が必要な案件があり、その都度いじめ対策サポート班を組織し、対応策を協議した。今後はいじめの兆候を早期に発見するための仕組みを考える必要がある。	引き続き、いじめの未然防止・早期発見・解消に向けて取り組む。特にスマートデバイスに起因するトラブルの可能性が高まっていることを鑑み、啓発活動に力を入れるとともに、問題の早期発見のための仕組みとして、オンラインによるアンケートシステムを導入し、教員間の情報共有を積極的に図っていく。
	入試情報の提供、生徒の学力分析、面談や進路行事などによって必要な情報や助言を提供し、生徒が主体的に進路目標を設定し、自ら工夫して学び続けるよう支援する。	教職員の全員が「生徒の主体的な進路目標設定と学び」を支援する進路支援に取組、生徒の95%が「担任面談および進路行事を通して進路について十分に考え、自ら工夫して学習に取り組んでいる」と回答している。また、保護者の96%が本校の進路支援に満足していると回答している。このことから、本校の進路支援体制は全体的に整っていると見える。しかしながら、「どちらかといえばいいえ」「いいえ」と答えている生徒、保護者もいるので、よりきめ細やかな働きかけが必要である。	進路情報を学年会・教科と共有しながら連携を深め、大学での学習にふれる進路行事を充実させていくことで、生徒が進路意識を高め、進路目標を実現するために自己の学習を修正しながら主体的に学習に取り組むことができるよう支援したい。また、進路に関する相談についてもきめ細やかな対応を継続していきたい。現在、来年度に向けてより効果的な進路行事の実施時期を検討し、進路行事の目的と位置づけの明確化を図っている。
保健管理	担任、保健部、専門家の連携により、健康管理と教育相談活動を充実させる。	教職員の普段の声かけや体調把握、面談等で、生徒も親切に対応されていると感じており、目標達成できているが、1または2の回答が昨年より低くなった。生徒からみると、教員が子どもへの心身の相談・悩みについて、1、2年生では親切に対応しているの回答が「はい」の割合が3年生より低く、保護者からは更に低く「いいえ」の回答も若干みられた。	3年生では、進路関係も含め教員と生徒の面談も増えており、三者面談等もあるため保護者と接する機会も増えるが、1、2年生では少し希薄かもしれないので、教科担任や部顧問との情報交換も定期的に行う必要がある。どの学年も、教職員の親切な対応に「どちらかといえばいいえ」が6%と若干増え、3年生では「いいえ」もあることから、欠席時の対応を密にし、保健室や相談室の状況共有、スクールカウンセラーとの面談や活用をすすめていく。
	学校全体でゴミの減量化と環境美化に取り組む。	教職員の環境美化への取組が100%になっている。生徒の回答も目標を超えているが、1または2の回答が昨年より低くなり、清掃指導が必要な場面もある。特に1年生の「どちらかといえばいいえ」が1割を超えていることが残念である。教職員の清掃に対する温度差もあるが、自主的に取り組むことができる支援を考えなければいけない。ゴミ分別の意識はあるが、分別方法を把握していない生徒もみられる。保護者の環境美化への取組満足度が90%を下回り、「どちらかといえばいいえ」が増加。校舎の老朽化や清掃では落とせない汚れも関係していると思われる。	清掃区域の見直しや、清掃用具の補充などをしっかり行う。限られた人数と時間で、しっかり清掃に取り組ませた。学校を大切に使う意識を育てたい。ゴミ分別や古紙回収を徹底し、ゴミの減量化のため再利用をすすめ、過剰な梱包の断りや業者引き取りができないかを考えていきたい。校内外を巡視し、修繕箇所や手前対応できないような内容等を調査・整理し、業者に委託する計画を立てながら、学校全体で環境美化をすすめ、生徒と教職員が安全に快適な学校生活を送れるよう努めていきたい。
保護者との 連携	保護者と連携して教育活動を行うために、PTA活動の充実を努める。	保護者の94%以上が学校の教育活動の理解促進の取組に満足していて、昨年よりも満足度が増した。また教育活動や連絡を十分理解しているという成果も約89%と向上していて、取組の成果が現れたと思われる。しかし学年別では3年生の生徒はしっかり情報を伝えていてと回答しているのに対し、保護者の理解度は他学年より低い。昨年度同様、すべての項目が判定基準の目標値を超えて改善も見られるが、配付物や連絡が十分に届いていない可能性はまだあるので引き続き課題としたい。	今後も学校の教育活動を十分理解していただくように、保護者への広報・連絡方法の改善の検討を継続していく。保護者への広報のために、PTAのホームページの充実につとめる。全教職員に、保護者と連携して教育活動を行うことの意義を常に意識するよう働きかけ、生徒にも保護者向けの配付物を確実に渡すよう伝えていく。3年生は特に入試情報なども多いので、より強調した働きかけを意識したい。
	同窓会等との連携や連絡調整を行い、教育活動の充実を努める。	同窓会の取組「ようこそ先輩」に生徒の約93%が満足しており、職業形成や進路選択の参考としてと考えられるが、1、2年生の満足度が少し低い。希望した講座が聞けなかった可能性がある。また購買・食堂の環境や取組においても生徒の96%が満足している。すべての項目が判定基準の目標値を超え高評価である。	「ようこそ先輩」の人気講座は高学年の希望者から優先される傾向があるので仕方ない結果ではあるが、広い場所を割り当てなるべく希望通りになるようにしたい。食堂は業者と生徒会の意見交換を行い、できることから要望に応じてもらっている。さらに満足度を高めるために、継続的に意見交換を行う。
図書・研究	学校設定教科「研究」に対し、生徒が主体的に取り組むことができるよう充実させる。	1～3年いずれの学年においても93～97%の生徒が活動に熱心に取り組む、充実した取組であったと回答している。満足度は2年生で最も高く、94.4%、3年生で最も低く87.5%となっているが、目標を上回っている。満足度の低い生徒も見受けられ、これまで今後も手法の見直しを繰り返し、探究活動をより充実させていく事が課題である。	研究Ⅱでは課題研究が2単位となり十分な時間をかけて研究に取り組めるようになったと共に、企業や施設や共同研究校との連携もできてきており、各研究のステップに対する取組を充実させてきている。SSHが第5期となり、研究Ⅰ、Ⅲについてもブラッシュアップを重ねている。今後もこれらをさらに充実させていく。
	学校設定教科「研究」に対する全校教職員による生徒支援体制を充実させる。	学校設定教科は、担当者が定期的に打ち合わせを行いながら進めており、教職員の96.0%が学校全体の取組となっていると回答している。「研究」の教科に関して、多くの教職員が関わり、ほとんどの教職員が「研究」の授業を何らかの形で実施している結果だと考える。教職員の異動がある中で、初めて関わる教職員に研究の指導手法をしっかりと伝承していく仕組みを整える必要がある。	できるだけ多くの教職員が「研究」の授業を担当することで学校設定教科に対する理解を深めてもらうとともに、担当者打ち合わせ会や放課後の教員研修会において教材や運営方法に関しても多くの教職員からの意見を収集し、授業の内容を改善していく。また、学年会との連携をより緊密に行い、協力して運営に当たることができるように工夫していく。
	図書館行事や広報活動を充実させ、生徒の読書意欲を喚起する。	教職員の読書指導の取組指標は94.0%となり、目標指数を上回るとともに、昨年から6%上昇した。このことに伴い、図書館の活動によって生徒の読書への関心が高まったかという成果指標も80.0%と、昨年と比較して2%も向上した。これまで定期的に「アサドク」の配布を続けてきて、それらが現れた結果だと考える。目標指数の達成に向け、今後も取組を続けていく。	読書指導をより活発にするための工夫、図書館と各教科との連携を密にすることが課題として挙げられる。一昨年度から図書部と研究部が一体化したことで課題研究との連携が強化され、課題研究に必要な図書等を多く取り入れることができている。さらにホームページを用いた図書情報の紹介やデジタル書籍の紹介など、幅広い形で読書意欲を喚起していきたい。
SSH活動を通して、生徒の科学的な関心を高める環境を充実させる。	本校が科学系イベントを活発に行っていると感じている生徒は87.1%と目標指数を大きく上回っているが、昨年度より4%指数を下げている。科学系イベントについて、名称整理と行事の精選を行ったが、生徒の事後アンケートでもSSH活動への参加が科学的な関心を高める事につながったと答える生徒は多いので、今後も校内外のイベントを考慮しつつ生徒にとって刺激的な機会を提供していく。	Google Classroom「すずかけAGORA」等を通じて各種イベントに関して分かりやすい広報を行う。各種行事を学校の年間行事と共に一覧表にまとめることで重複している取組や日程的に難しい取組がないかを明らかにし、生徒が見通しをもって参加できるようにする。各分掌と連携して、行事の精選、日程の見直しを必要に応じて行っていきたい。	